

2005年を迎えて

神奈川県異業種グループ連絡会議・議長 南出健一

2005年、明けましておめでとうございます。この一年、皆様にとって幸多い年になることを心からお祈り申し上げます。

バブル崩壊から苦節十余年、事業縮小や人員整理の一段落した産業界も未だ紆余曲折があるとはいえ「再生」に向けての舵を切り始めてきました。それでも、ここまで成熟しきった国にあって、今までの考え方・やり方だけで飛躍的な発展は考えられないし望むべくもありません。まして限られたパイの中では勝者と敗者の激しい「入れ替わり」が年を追う毎に深刻化してくるよう思えるのです。ですから誰しも「勝者」の座を射止めた瞬間から「次なるシナリオ」を描けなければ間違いなく「敗者」への道程をたどることになります。

さて、世はまさにユビキタス・ネットワーク時代。見越したかのように「IT経営」なるキャッチフレーズがあちこちで話題になり始めてきました。

「いつでも、どこでも、誰とでも」自由に欲しい情報が手に出来る時代になるということです。それも日常生活の中で、さして意識もせず「使い勝手のいい」道具として登場し、多くの人々はその恩恵に浴すことになれば沈滞している政治・経済社会の様相を大きく変えるキッカケになるとも言われています。

中小企業が勝者としての地位を堅持しようとするならば、この進化した情報ネットワークの力を使わなければ「次なるシナリオ」を描くことは不可能になります。それゆえ自社の独自性、優位性そして弱点を詳らかにさせながら、全体最適に焦点をあわせ「使いこなし」していくことが焦眉の急になります。

たしかにユビキタス・ネットワークといえども「道具」であることには違いありません。が、従来の社会規範や地域・業種の垣根を越えたところまで手が届くとすれば「すばらしい未知への世界」が描ける最大の武器になるはずで。

10数年間も縮小均衡を是としてきた日本の産業界も、いよいよ外に打って出る装いを整え終えています。大企業が動き出す前に「身軽で素早い歩み」を身上とする中小企業こそが願ってもない頼もしい味方の「ユビキタス」を、自由自在に使いこなし一歩先んずる事業展開を進めるべきです。

2005年は私たち中小企業にとって「澁み切った成熟」からの脱却と「未知への創造」に向けて千載一遇の好機にしたいと願っております。「かながわ異グ連」はこのプラットフォームとしての役割を担い、より先鋭的な「広角的新連携活動」を進めて行きます。

皆様のたゆまない一層のご支援とご協力を賜らんことをお願い申し上げます。

神奈川中小企業センター、神奈川異グ連及び関連行事

異グ連事務局（広報担当）

- ・01月18日（火） 新春講演会「中小企業新事業活動促進法（仮称）」、3地区合同産学公交流サロン
- ・01月26日（水） 神奈川中小企業センター「公的助成金取得集中相談会」
- ・02月02日～4日 テクニカルショウヨコハマ2005
- ・02月08日（火） 講演：大分県異業種団体協議会会長 鈴木規夫氏
- ・02月10日（木） 補助金（SBI R）説明会
- ・02月14日（月） 地域中小企業と大学との共同活動〔中小企業異業種交流財団〕
- ・02月24日（木） 三浦半島経済人サロン
- ・03月01日（火） 全国融合化フェアー

（このページは大海原から旭が昇る様をイメージしました）

前号(27号)からの続き 異グ連に新たなプロジェクトが発足しました

JICAプロジェクト(当面アルメニア対応)の発足

芝 忠

前号でJICA(ジャイカ:独立行政法人国際協力機構)との新たな連携についてお知らせしましたが、旧ソ連内のアルメニア共和国に対する調査団の参加問題が本格的に提起されました。年末年始のあわただしい中(12月20日、24日、1月5日、8日)を立て続けに会合を持ち、対応を協議しました。先ずJICAプロジェクト(当面、アルメニア対応)として、加藤、井上、松本、有賀、芝の5人でチームを組み、2月中旬に調査団を派遣することになりました。

アルメニアは人口3百万人余の農業国です。またモリブデン、銅なども産し、第一次の産業振興策としては、鉱業の再建が大きな柱になっています。第2次策として工業の振興や、農産物の食品加工技術の研究が課題のようです。周辺を4カ国に囲まれた内陸部の国なので、輸出に当たっての物流コストが大変でしょう。日本への輸出希望があるようですが、旧ソ連の体制の中で「計画経済体制」として製品作りをしてきたため、日本の多様な消費者相手に通用する「商品づくり」が可能なのか、また品質などの点でも懸念があります。

JICAからの当初の研修課題は、中小企業の生産管理や品質向上など基礎的な内容です。同国の中小企業支援セクションの担当が15名ほど(他に地方支局に9名ほど)で、その国家公務員に対する研修を行うということです。さらに産業振興プランづくりと、実施可能な個別対策を計画するということになりそうです。

現地調査は1週間程度ですが、往復と関係機関への表敬訪問等があり、さらに1週間は必要で、あわせて2～3週間の日程になる予定です。

JICAからはアルメニアだけでなく、緊急にタイ国への研修依頼も来ており、JICAプロジェクトが大きな案件になりそうです。神奈川異グ連としては、体制の強化を図る予定ですので、関心のある方や心当たりのある方の参加を期待しています。

(連絡:TEL045-633-5192 芝、志村、松本、加藤)

主要な“かながわ異グ連”のプロジェクト、及び研究会の活動報告、PR

オールディーズ・シニア・クラブ

小林BC

1. (社)日本水難救済会より「感謝状」授与

街頭募金・チャリティ映画祭で実施した「青い羽根募金」に対し、平成16年12月に感謝状をいただきました。募金活動に多大の尽力をし、ボランティアとして人命救助にあたる全国の救難所員の士気を大いに高め、わが国沿岸における海上の安全確保に大きく寄与した事が授与の趣旨でした。

募金活動にご協力いただいた皆様のお蔭です、心より御礼申し上げます。

2. 神奈川県の水源環境保全を再認識

当クラブの12月度定例会で「災害対策用の水」についての勉強会を行いました。資料の関係でメインテーマは次回としましたが、水資源確保に欠かせない森林保護が財政的事情から充分でないことに議論が集中しました。新税の是非や人手など難しい課題が多そうですが、ビジネスチャンスは結構ありそうです。

3. 1月度定例会は草津温泉1泊で実施

1月15～16日に実施予定。来年度の事業計画に良い智恵ができればいいのですが?

三浦海洋深層水を楽しむ会

八幡BC

小春日和に恵まれた12月11日(土)三浦市農協松輪支店に、春キャベツ栽培・出荷グループを訪ねました。草間会長(当会員)のご案内で、見渡す限りの緑の苗を眺め、新鮮・安全・美味の深層水キャベツは他よりも100円高く売れていると、頼もしい話に元気づけられました。その後、観潮荘で深層水風呂に浸かり、深層水料理に一同交流を深め、帰路は松輪の大根と高梨会長自慢のごま豆腐を土産に、会員相互の温もりを噛みしめた次第です。

<p style="text-align: center;"><u>シフト21</u> 有村BC</p> <p>「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループで、業種・業態を問わない幅広い交流を目的としています。</p> <p>2004年は、「シフト21」が“ファシリテーター”となり、参加会員が自発的に変革を遂げることができるような力を引き出す促進者となるよう活動を行うことを方針に活動を行ってまいりました。2005年もこの方針に基づき、会員のプレゼンテーション、外部講師による講演、先進的な企業の見学会を行ってまいります。また、2月に開催されるテクニカルショウにも参加し、参加会員とシフト21のアピールをいたします。</p> <p>定例会の予定ですが、1月定例会は1月11日(火)、会員の板倉健氏(アイピーシーコミュニケーション(有))に「ソフトウェア技術者の需要と供給から見た、IT&エレクトロニクス産業の動向について」と題してお話いただきます。2月定例会は2月8日(火)に会員の菊地敏夫氏(菊地マネジメントラボ)に「気になる診療情報の保護」についてお話をいただきます。いずれも午後6時~8時半、東武第三ビル(横浜駅徒歩10分)で行います。</p> <p>シフト21では参加を歓迎しております(初回参加は無料)。お問合せは有村までお願いいたします。 hda00467@nifty.ne.jp</p>	<p style="text-align: center;"><u>新機能環境適応型舗装等プロジェクト</u> 織方BC</p> <p>前回取り上げた視覚障害者向け「エスコートライン」に関して、日経新聞12月9日付けの首都圏経済ページに、「視覚障害者も安全に渡りやすい横断歩道」という見出しで、トップ記事として掲載されました。詳しくはご覧になって下さい。さてその後の引き合いとしては、一つは幕張テクノガーデンの駐車場で、最終的には2万5千㎡と、やや規模の大きい施行となりそうです。さらに、2つ目としては、港北ニュータウンの其マンションでの遊歩道用の外構工事があり、徐々に事業化が進みつつあります。</p>
<p><u>関内都市再生プロジェクト</u> 池谷BC</p> <p>1月の例会を拡大し、関内ビジネス街再生へのヒントを得るための講演会を下記により開催します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>日時：1月26日水曜日15時~17時 場所：横浜メディアビジネスセンター 9階 神奈川新聞社会議室。 講師：大阪市立大学大学院文学研究科 助教授 工学博士 橋爪紳也氏</p> <p>「賑わいを創成するという「仕掛け」から発想する「都市論」で京都・大阪を中心に活動中」の方です。</p> <p>一般参加歓迎 参加費 無料(80人) 申し込み：神奈川中小企業センター交流支援課(芝、池谷) f a x 045-633-5194、 問合せ：事務局の池谷 (Tel045-741-1077)</p>	<p style="text-align: center;"><u>第50回日韓ビジネス協議会の開催案内</u> 高橋BC</p> <p>1月の例会を次の通り開催します。関心ある企業の参加を歓迎致します。</p> <p>1、日時：1月27日(木)15:00~19:15 15:00~17:00 定例会 中小企業センタービル5F会議室 17:15~19:15 新年会 楽顔亭桜木町店 会費：3,000円(協議会のみの方は1,000円)</p> <p>2、内容</p> <p>①挨拶・・・瀧澤会長 ②ベンチャー企業紹介：道路反射器：「高輝度蓄光タイル」等 ・・・(株)ティー・オーカンパニー代表取締役 筒井 理氏 ③生活雑貨商談会2004(昨年：東京/横浜で開催)の報告 ・・・韓国中小企業振興公団・東京事務所 所長 朴魯鍊氏 ④事務局からの韓国情報および連絡他 ⑤「助成金を利用してスーパーサーバー開発から国際商品になるまで」 ・・・(株)ベイシティサービス 営業顧問 木内敏雄氏</p> <p>参加時には事務局の高橋まで連絡して下さい。TEL：045-311-0094</p>
<p style="text-align: center;"><u>新防食技術活用プロジェクト(1月定例会)</u> 田中繁夫BC</p> <p>日時：1月25日(火)15:00~17:30 場所：神奈川中小企業センター5階会議室</p> <p>テーマ 1)新防食技術の紹介(ベンチャーアカデミア社 永井取締役) 2)テクニカルショーヨコハマ2005の展示 3)現地見学会及び3月1日開催の技術セミナーの検討</p> <p>別に、3月1日(火)の午後13:30より18:00まで、神奈川中小企業センター13階、第3会議室で一般企業の技術者を対象とした「防食対策&防食技術活用セミナー」を開催します。当日、防食に関する個別の技術相談も受けます。 申し込み：神奈川中小企業センター交流支援課(芝、田中) Fax045-633-5194</p>	
<p style="text-align: center;"><u>「異グ連20周年記念座談会が開催されました」</u> 相楽BC</p> <p>記念行事の一つとして、「20年を振り返る」と「今後の異グ連の進む道」について、2回にわたり、座談会が開催されました。出席者は、柳田一千一氏、中山邦男氏、坂本徳博氏、南出健一氏、島津龍男氏、根岸良吉氏、それに芝忠氏でした。</p>	

小生（相楽）は、テープ起こし担当として、2回とも拝聴しておりましたが、この20年間こんな情熱をもってやってきたのか、ということを感じました。そして、今後の神奈川異グ連がどのように進むか、色々と考えさせられました。

皆さんが言っている大きなテーマは、異業種交流が誰にどのように活用されるものなのか、中小企業がそのニーズを嗅ぎ取って、参加したくなるようにするにはどうするか、ということでした。

そのために、もの作りだけでなく、ソフトのコンテンツも含めたネットワークをどう作り上げていくのか、ジャンルや地域を越えていくことの必要性があるでしょう。

私は、神奈川から発信することが神奈川での基盤を先にするか、WEBは地域を限定しない、ことを考えると「この指とまれ」方式の方がいいのかもしれない、そして、次に形というか、組織をどうするか、成果は何になるのか、販売という形を目指すなら、任意団体でなく、協同組合でもなく、株式会社ということも考えられるわけです。しかし、公共性があるともいえる異業種交流です。利益を分配することを目指すかどうか、今後の議論を聞いてみたい、と思いました。

ともかく、我々は情報発信をしていくことが今やるべきことの1つであることは間違いありません。更にこの「神奈川異グ連ニュース」を読むのを皆さんが待ち焦がれるようにしたい、と思いました。率直な感想でした。座談会を編集して皆様にお目にかかれるようにします。お楽しみに。

産学官交流サロンのコーナー

！第6回三浦半島経済人サロンの案内（予告）！

八幡BC

第6回を次の日程で開催いたします。ぜひスケジュール調整の上、ご参加を期待します。

日時：2月24日（木）18：00～20：00 場所：神奈川新聞社横須賀支社 5F会議室

話題提供予定：（協）みさきまぐろ倶楽部 理事長 星野 英雄 氏
（株）TIS 代表取締役社長 玉奥 信幸 氏

新春講演会！！（3地区合同の産学公サロン）

異グ連事務局（広報担当）

2004年スタートした「産学公サロン」の1年間を振り返り、その成果を3地区（川崎、横須賀、横浜）合同で意見交換を行いたいと思います。

1、日時：H17年1月18日（火）15：00～18：30

2、場所：神奈川中小企業センター14F多目的ホール 会費：1000円（予定）

3、内容：15：00開演

15：10第27回中小企業政策研究会

新春講演「中小企業の新連携を支援する」

経済産業省・中小企業庁創業連携推進課長 北川 隆文氏

16：20質疑と休憩

16：45産学公サロン3地区合同発表大会：川崎、横須賀、横浜から1年間の状況報告と質疑

17：15～18：30意見交換と懇親会

4、担当：中小企業政策研究会（島津（俊））、川崎サロ（田中（繁））、横須賀サロ（八幡）、横浜サロ（河津）

<申し込み、問い合わせ>神奈川異グ連事務局（芝、志村、島津（俊））

TEL 045-633-5192、FAX 045-633-5194

<編集室の独り言>

異グ連事務局（広報担当）

新春早々、ナノテクの世界で新材料を次々に生み出している川崎の材料技術最先端企業を訪問させていただき、創業者である現会長の経営理念をうかがいました。それは『共創』：「常に相手との相互信頼と理解を基本とし、相互にもてるものを補い合い、共に創造的活動を行うこと」でした。この共創の原理の実践は「研究者間の共創」「企業との共創」「産学官との共創」にあるとのことでした。

まさに異業種交流（新連携）の真髄を実践されておられることに、心底驚きかつ感心すると共に、異業種交流（新連携）が経営の王道に通じていることに改めて意を強くした次第です。

かながわ異グ連会員の方、会員でない方、どなたでも自由に情報交換・投稿が出来ます。

（投稿先：事務局（広報担当）小野川利昌 onogawa@hkg.odn.ne.jp、FAX044-954-6254

相楽 守 mamorusagara@mve.biglobe.ne.jp FAX03-3701-9712）